

「サポートブック」の 目的と活用について

大阪千代田短期大学 実務者研修講師
サポートブックはーと ピアはーと顧問

宮崎充弘



今後の障害児支援の在り方について

～「発達支援」が必要な子どもの支援はどうあるべきか～

平成26年7月16日
障害児支援の在り方に関する検討会
(報告書のポイント)

基本理念

- 地域社会への参加・包容(インクルージョン)の推進と合理的配慮
- 障害児の地域社会への参加・包容を子育て支援において推進するための後方支援としての専門的役割の発揮

障害児本人の最善の利益の保障

家族支援の重視

地域における「縦横連携」の推進

- ライフステージに応じた切れ目の無い支援(縦の連携)
- 保健、医療、福祉、保育、教育、就労支援等とも連携した地域支援体制の確立(横の連携)

相談支援の推進

支援に関する
情報の共有化

児童相談所等との
連携

支援者の専門性
の向上等

地域における「縦横連携」のイメージ

関係者間の共通理解・情報共有
→ 途切れない支援の調整

つながる仕組み
♡
つなげる思い……
サポートブック

障害福祉

就労
支援

計画
相談
支援

本人
(家族)

医療

地域保健

職場・地域生活

成年期

卒業

障害児
支援

後方支援

社会的
養護

障害児
相談
支援

本人・
家族

医療

学校保健

学校等

学齢期

入学

障害児
支援

後方支援

社会的
養護

障害児
相談
支援

本人・
家族

医療

母子保健

保育所等

乳幼児期

「気づきの段階」からの支援

<報告書提言の主な内容(1)>

① 地域における「縦横連携」を進めるための体制づくり

- 児童発達支援センターを中心とした重層的な支援体制(各センターによる保育所等訪問支援・障害児相談支援の実施等)
- 保育所等訪問支援等の充実、入所施設への有期・有目的入所の検討
- 障害児相談支援の役割の拡充、ワンストップ対応を目指した子ども・子育て支援新制度の「利用者支援事業」との連携
- (自立支援)協議会の活性化、支援に関する情報の共有化を目的とした「サポートファイル」の活用
- 障害福祉計画における障害児支援の記載義務の法定化

つながる
仕組み
♡
つなげる
思い……

② 「縦横連携」によるライフステージごとの個別の支援の充実

- ライフステージごとの支援(乳幼児期、小学校入学前、学齢期、卒業後)
- 保護者の「気づき」の段階からの支援、保育所等での丁寧なフォローによる専門的な支援へのつなぎ、障害児等療育支援事業等の活用
- 教育支援委員会や学校等との連携、卒業後を見据えた就労移行支援事業所等との連携

サポートブック「はーと」 とは・・・

成長していく上で**細やかな配慮などが必要**な子どもたちが、

乳幼児期から成人期までの**ライフステージで途切れることなく一貫**した支援を受けられることを目的に、

保護者と関係機関が子どもの**情報を共有**するために作成するファイルです。

府内の各市町村では順次様式の作成が進められているところです

「はーと」河内長野市サポートブック



- ・ 入学・入園時などにサポートブックを学校や関係機関に見せる
ことで、

子どもの情報を分かりやすく整理して伝えることができ、

連続性のある適切な支援につながることが期待されます。



使うのはどんなとき？

入園、入学、入社、福祉サービスの利用など、新たに関係機関との関わりが始まるときこれまでの育ちの様子や支援内容などを詳しく伝えることが必要になったとき

- 生まれたときからの記録は、入園・入学後の先生たちの理解につながり一人ひとりに合った教育・支援につながります。
- 状況や支援の目的に応じて使えるよう項目ごとのシートになっています。場面に応じて必要なページをファイルから取り外して、関係者に伝えることができます。
- 子どもの育ちの様子やこれまでのできごとを記録ファイルとして残すことができるため、障がい年金の申請などに利用できます。



①つづります

子どもの様子や支援を受けた内容などをつづります。



②伝えます

これまでつづってきたサポートブックを関係機関の関係者に見せることで、子どもの情報を整理してわかりやすく伝えられます。

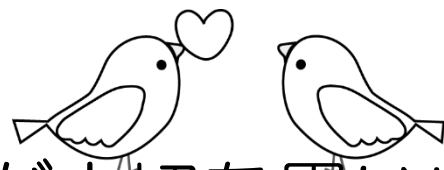


③つないでいきます

乳幼児期から成人期までのライフステージで途切れることなく一貫した支援を受けられるように活用することができます。

●関係機関や支援者に子どもの情報がわかりやすく伝わり、伝え忘れも防げます。

●関係機関や支援者が変わるたびに、同じことを繰り返し伝えるという負担が少なくなります。



メリット

●子どものさまざまな情報が大切な思い出として残せます。

●先生や支援者にとっては、子どもの様子が正確にわかり適切な支援につながります。

意思 と 選好 思い出

使用上・保管上の注意

- 記載する内容は、大変重要な個人情報です。
- 保護者、またはそれに代わる立場の方が責任をもって、慎重にファイルを保管し、必要に応じて活用してください。



支援機関の皆様へ

サポートブック「はーと」は、ご本人のことを理解するためや支援の手がかりとして活用していただくものです。

ご本人やご家族が記入することが原則ですが、内容によっては学校や支援機関のアドバイスが必要となる場合があります。その時は、書く内容や書き方、整理の仕方などをアドバイスしていただきますようお願いいたします。また、書き方等に決まりはありませんが、ご不明な点などがあれば、下記の機関にお問い合わせください。

なお、参考となる資料などがございましたら、ご本人やご家族にお渡しいただき、このファイルと一緒にとじこむようにアドバイスしていただきますよう、あわせてお願いいたします。

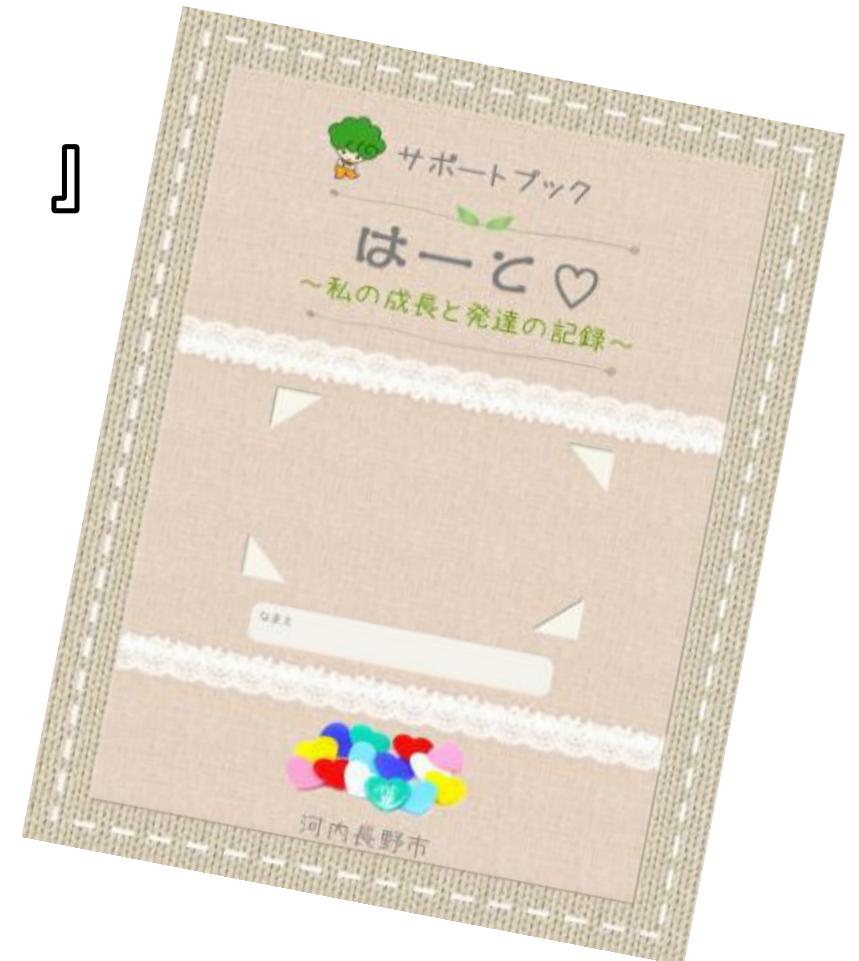
「サポートブック」を理解する

- サポートブックの目的は？

目的：『

- サポートブックの活用方法は？

- ライフステージにあわせた活用
- 活用アイディア
- 活用効果



キーワード

- 成長していくうえで細やかな配慮が必要な方のために・・・
- 暮らしていくうえで細やかな配慮が必要な方のために・・・
- 生きていくうえで細やかな配慮が必要な方のために・・・



成長したところ

- 子どもの 成長 がみえる
- 子どもの 成長 を共有できる
- *お互いに成長したことを理解しあう ために 記載する

ADL できる・・・できない・・・

- こどもの可能性の芽生え
- 自分でできることがある
- 環境によってかわる・・・可能性がある
- できる できない だけではなく そのときの気持ち
- **ADL+「サポートブック」(気持ちを記載する)**

思い出

- 友だちの名前
- イメージできる記載・写真・等

「みんなでかく」を
実践してみても・・・。

～書いてもらってよかったこと～

- 保護者の知らないこと・情報があった
- 色々な聴き方がある
- 共通の情報があることで、コミュニケーションをとりやすくなる

～「みんなでかく」ために配慮が必要なことは？～

- 学校の先生から懇談で聞き、かきとった
- 支援会議等であらためて時間をとる
- 事例を見せることで書く側も書きやすい
- 書いていただいた結果こうなったことをフィードバックする

「みんなでかく」ために 必要なことは？

- 活用した内容を話し合う場
相乗的に 書く文化ができるのでは？
- 懇談会や支援会議で 書く という 仕組み
- 期日は決めずに 通知表とかぶっても構わないと 先生の負担にならないよう伝える。子どもに残したいとお願いする。
- 1回書いてみると続けたい・・・？
- 次の支援者や先生も書くことが続くのでは・・・

どのように活用されているかわからない ・・・？

- 子どもの目標
- 子ども中心に周りの大人がイメージする。
- どんな状態か？
- 状態像の共有 が大切

書く つづる みんなでかく の

「活用する」へ！！

サポートブックの効果と可能性

サポートブックから読み解く！

～本人中心の視点、計画作成などについて～

- ①本人中心の支援連携（大目標）
- ②根拠をもった支援
- ③合理的配慮
- ④意思決定支援
- ⑤権利擁護、虐待防止
- ⑥二次障害防止や社会参加
- ⑦保護者自身のメンタルケア

など

①本人中心の支援連携（大目標）

→相談支援が作成する

「サービス等利用計画・障害児支援利用計画」
に反映し、本人中心の支援の担保

アセスメント

サポートブック
「はーと」



-発達検査
-教育支援計画

聞き取り



ご本人



福祉サービス
事業所等

一次アセスメント



訪問等

ご家族

二次アセスメント



療育機関
OT・PT等



初回訪問で・・・

■ 「はーと」がある方

- 「はーと」を元に聞き取り
- 「はーと」から汲み取れること

■ 「はーと」がない方

- 初回訪問時やモニタングを通して「一緒に作りましょう！」

- ◇ 進路先や事業所への活用を提案
- ◇ モニタリングでの情報更新
- ◇ 「教育支援計画」「発達検査」「医療検査」の結果なども一緒に
はさんだり、写真などもたくさん張ったり。。。

サポートブックを使ってサービス等利用計画等・個別支援計画を作成している支援者の感想

- **効率性**、そして本人主体の支援をおこなうにあたり**客観性**をもてる。
- 「**まず、はーとを一緒に書きましょう**」と面談ができる。
- 聞きにくいことが「サポートブック」に沿って話が進められるので**聞きやすい**。
- 保護者の**話したくないところ**もわかる。
- **ブれない情報**で**確認**作業がしやすくなる。
- 事業所を掛け持ちしている児童は特に「サポートブック」や「サービス等利用計画」での**①大目標がはっきりする**。 などなど

②根拠をもった支援

→ 支援の根拠・可能性の拡がり → 将来の選択

③合理的配慮

→ 個別の配慮情報

④意思決定支援

→ 表現が苦手な当事者の思いや価値観

⑤権利擁護、虐待防止

→大切にされて生きてこられた歩み

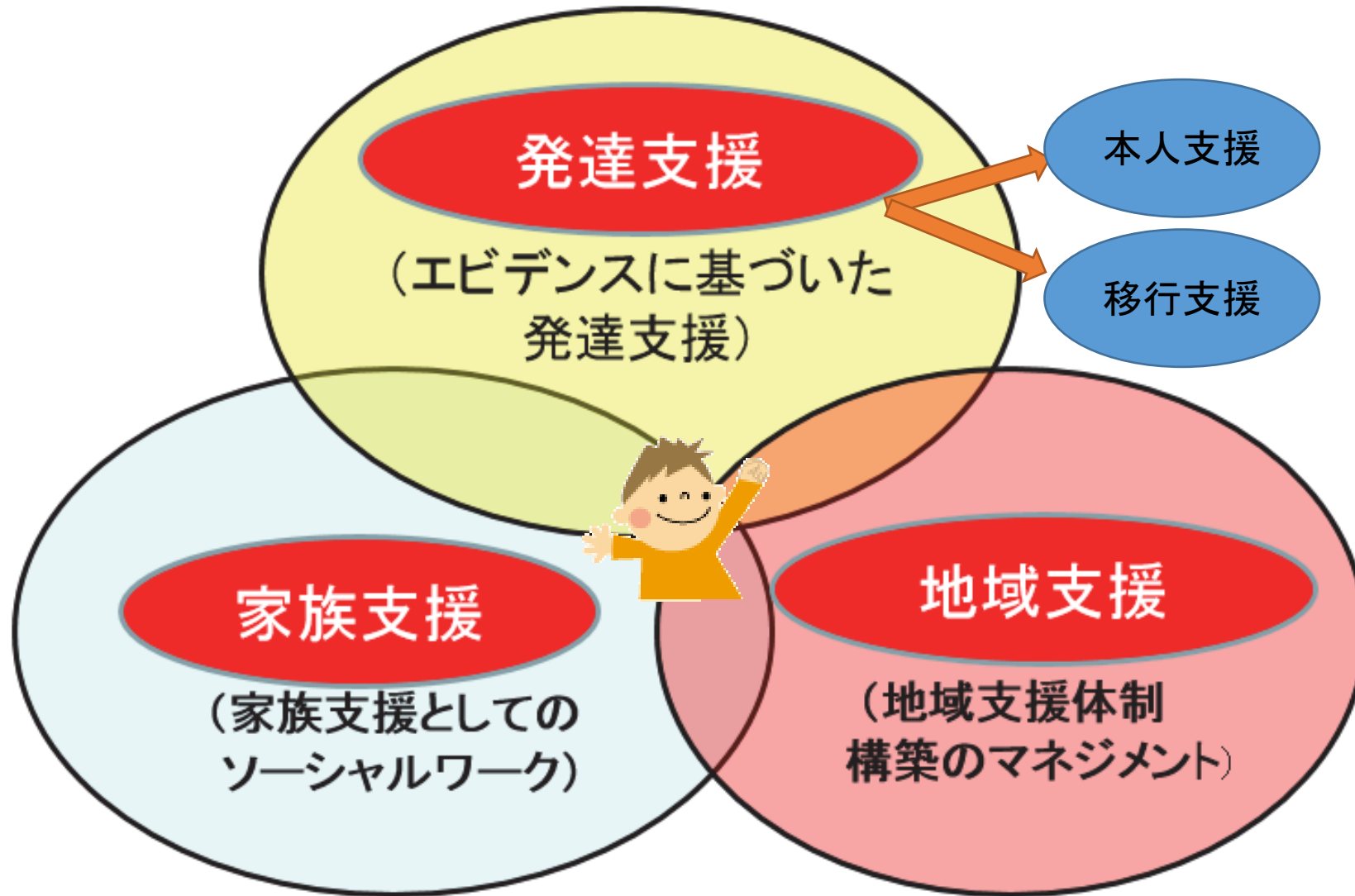
⑥二次障害防止や社会参加

→成人の支援者の意見。二次障害で社会参加が難しくなった当事者へのツールとして重要

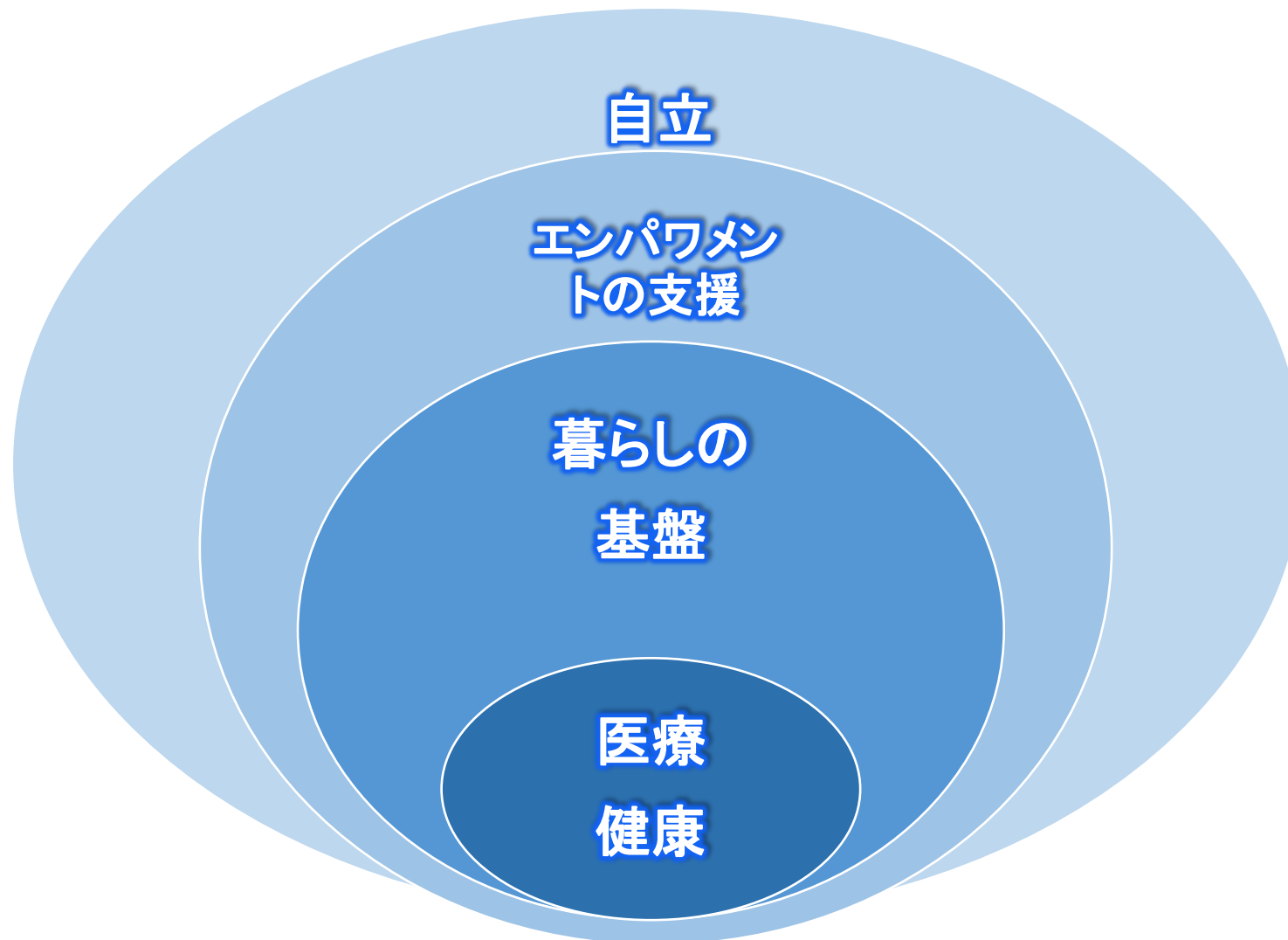
⑦保護者自身のメンタルケア

→保護者自身が子育てを振り返る、成長を感じる、エンパワメントできるツール

児童発達支援の3つの要素



支援計画をたてるにあたってのポイント



こどもたち

- いきいき生きる！ 家族支援～社会的育児
- みんなと生きる！ 地域～学びあい
- 好きに生きる！（えらんで生きる） 意思決定支援

それを支える 大人たちと環境（地域）

我が町のすべてのこどもたちに

広げていく